

会 報

東北大学教育学部同窓会仙台支部



教育学研究科長・教育学部長 細川 徹

本年4月から教育学研究科長・教育学部長を仰せつかりました細川です。会員の皆様へ初めてご挨拶するにあたり、まずもって東北大学百周年記念事業への多大なるご協力に心から感謝申し上げます。次第です。

東北大学は来年から一世紀を超えて新たな歴史を刻むこととなりますが、その記念すべき年に、私どもの教育学研究科もまた新たな第1歩を踏み出すことになりました。これまでの総合教育科学専攻に加えて、これからの時代の高校教育を担う人材を育成すべく教育設計評価専攻を設置いたします。

教育学部でありながら（大学院でも同様です）教師を育てるという目標をもたないことは、世間の人から見るとわかりにくいことです。受験生や保護者の方からも、このことはよく聞かれます。東北大学教育学部は、新制東北大学の発足時から、教員養成課程を有する唯一の旧帝大でした。しかし、昭和40年の宮城教育大学の設立と同時に、教員養成を主目的としない教育学部となり、現在に至っていることは皆様ご存じの通りです。

であればこそ、東北大学教育学部及び教育学研究科は何を目指すのかという問いに、私どもは真摯に答えなければなりません。教育に関する諸現象を科学的に解明する、学校教育だけではなく家庭や地域などを含めた教育の在り方を考える、生

涯を通して学び続ける存在である人間そのものが研究の対象である、こうした説明をして参りました。しかし、わかりにくさはぬぐえません。たとえば、医学部は医師を養成するというイメージがありますが、実は皆が臨床医になる訳ではなく、最先端の研究を行う人材も育てています。本学部・本研究科も、教師を育てながら前述の目的を果たせないだろうかという素朴な疑問が残ります。ただ、それは過去の経緯から種々の困難な問題があることも事実です。

そのような中で、総合研究大学としての東北大学にふさわしい、他ではなかなか真似のできないような高校教員を育てようという構想を、2年がかりで暖めて参りました。それは、学校や地域のニーズに合わせてカリキュラムを開発し、実際に授業を行い、その結果を科学的に評価し、改善につなげる力をもった教員の育成です。これをさらに充実させるために、最先端の研究を行う他研究科との間に授業のネットワークを構築し、教育委員会とも連携して提携校における教育実践を行います。当面、小さな専攻として出発しますが、研究科として大きく伸ばしていく夢を持っています。来年から新しい一歩を踏み出す新専攻に対しまして、同窓生の皆様には、これまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「酔いどれ」

沼田嘉一郎 (31年入学)

2人の仲間は酔いが回ったとみえ、声高に話し合っていた。「君の態度はあまりにも単純でその上、頑でいかんよ。これから頂上を目指す人間は何といっても包容力が必要だね。時に孤独を感じることもあっても、それに耐えることが上司になる人の宿命なのかも知れないよ。うちの学校にも注意、指導と厳しい管理職がいるが、全然気にしないことだね。職場はもっと「ゆとり」があるべきだよ。僕が釣りをやっていることは君も知っているだろう。釣り竿はね、真っ直ぐでぶっきらぼうでは魚はつかないんだよ。竿はね。魚の動きに対して、引っ張られたら伸び、ゆるんだらこっちが引っ張る弾力があってこそ、よい竿なんだ。教育だって同じさ。弾力がなくては何。」と言った。

お互い盃をやり取りし飲み進むうちに、2人の前には大きな皿が出され、料理が盛られてきた。それまで饒舌にしゃべり続けていた男は、よほどお腹が空いていたとみえ、いきなり箸を取って、料理を掴もうとしたが、なかなか掴めそうもなく何回か落とした。

それまで聞き役だったもう1人の男が、静かに言うには「箸は釣り竿と違って、真っ直ぐで堅い方がよいようですね。先輩。」と言った。「今は教育改革のさなか。授業数10%増とか、教員免許更新制、民間人の教員や管理職への登用など学校経営を意識したのかどうも市場原理や競争主義が入り過ぎませんか。先輩。聞いているんですか。数年前には知育偏重の反省から「ゆとりと充実」へ。口角泡を飛ばし、タンペかけかけ議論しましたね。いったいあれは何だったんですか。

どんなに時代が進歩しても教育の営みは、やはり愛と信頼で結ばれる師弟関係を根底に、豊かな人間性、知・徳・体の調和の取れた生徒の育成にもっと力を注ぐべきですよ。先輩」会話はとめどなく続く。

であい・ふれあい・めぐりあい

—— 郷愁の鮎川 ——

齋藤 孝雄 (32年入学)

夜明け前の海岸で、三脚にカメラを乗せて日の出を待っている。砂浜に寄せる白い波、コバルトの空を翔ぶ水鳥、茜色に輝く朝焼けの雲。そして水平線上に浮かぶ金華山のシルエット。

心の中に『浜辺の歌』がわき上がってくる。「あした浜辺をさまよえば、昔のことぞと忍ばるる……」初任地の鮎川への郷愁で胸が熱くなってくる。

昨年、鮎川小学校昭和38年卒業生の同級会に招かれて、久しぶりに懐かしい教え子達に再会した。学校時代の思い出話、近況報告、カラオケ大会等で深夜まで懇親を深めた。

翌朝、海を見下ろす校庭を歩きながら、心に浮んできたのは、標題の言葉であった。子供達や先生方、地域との「であい・ふれあい・めぐりあい」である。これは、教職生活をとおして学んだ私の座右の言葉である。

時は流れ、私の最終勤務校袋原小学校の「春の大運動会」の日のこと。校長挨拶が終わって、式台を降りた時、「孝雄ちゃんじゃないか?!」と言いながら駆け寄ってきた白髪の人があった。

見ると、その方は、かつて鮎川小学校でお世話になったS・S校長先生であった。退職後、袋原に移住し、その日は同居のお孫さんの応援に来ていて、私を見つけたということであった。

翌日、長年のご無沙汰をお詫びしつつ、お宅にお伺いした。「奇遇だねえ」と先生も、再会を喜んで、「あの日あの頃」の思い出話にしばし花を咲かせた。先生は、毎月1・2度、本校から2時間の山道を歩いて新山分校を訪問して下さった。

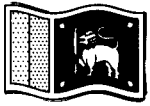
思い出を語る先生の声は、かつて「孝雄ちゃん元気か」と励ましていただいたあの頃と同じ声であった。

早朝の海岸撮影の帰途は、遠回りでもS・S先生のお宅近くの道路を通ることになっている。

大学1年生の頃

今野 鉄男 (29年入学)

スリランカに 育つ小さな芽



阿部 孝子 (35年入学)

「おばさん、今、私はとっても楽しくしています。新年の行事に参加して賞品をたくさんもらいました。……おばさんありがとう。私を助けてくれて。今、私はとても楽しく学校に通っています。おばさんへ送る写真も撮りました。たくさんお手紙を書きます。…… (略)」

今日もスリランカの里子Iちゃんから、うれしい手紙と絵、そして、一段と成長した写真が届いた。母親からも娘が学校の勉強をしっかり進めており先生に褒められていること、支援金で娘に人形を買い与えることが出来たこと等報告があった。スリランカでボランティアとしてスランガニ基金を立ちあげ、幼児、初等教育に孤軍奮闘しているBさんの活動に賛同し、私も2人の女兒の教育支援をさせていただいている。少々高めのコーヒー1杯分の節約で一児童の1ヶ月分の教育費が賄えるのである。彼女等の日々の生活は厳しい状態のようであるが、写真の瞳は輝いている。夢に向かってがんばろうとしている意欲が表れた顔は美しい。

女兒への支援を選んだのは、女性が賢くならなければ、貧困や内戦はなかなか打開出来ないと思うからである。彼女達が一生懸命勉強をし、リーダー格として、豊かな国造りの一翼を担う存在になってほしいと願っている。

かつて、私も奨学資金をお借りして高校、大学へと進学した。だから、そのありがたさが身にしみている。今度は何らかの形でお返しをする番だ。そんな折、スランガニ基金の存在を知った。

Iちゃんは成績抜群で一年生から飛び級で三年生になった。頼もしい限りである。いつか日本の大学に留学できたらいいな…と思うのは(里)親バカの夢であろうか。

1年生の頃、私は長町市場前から錦町まで市電で通っていた。市場前の電停で電車を待っていた。ある朝、医学部の学生たちが実験で魚の解剖をさせられたらしく、これではまるで魚屋だと言っていたことを覚えている。電車に乗ってしばらく行くと仙台駅前に着く。ここに来ると電車はにわか混み出し、錦町で降りるのに苦労した。電車から降りると北七番町の教育教養部まで歩いて結構な距離があった。途中、NHK仙台放送局、駐留軍がいた当時のアメリカ陸軍病院のそばを通過、旧宮城師範学校の校舎をそのまま使っていた教育教養部へ着くのであった。

1年の時の思い出に残る授業は、高坂先生のドイツ語、佐久間先生の憲法、斎藤先生の体育であった。ドイツ語、憲法の授業は講堂で、体育の授業は体育館や運動場で行われた。

旧制二高教授であった高坂さんはきびしさそのもの、おかげでドイツ語をみっちり仕込んでもらった。佐久間さんは温厚篤実な人柄で、清宮先生(法学部)の『憲法要論』をテキストとして使われての詳しい解説が印象に残っている。

また、体育の斎藤さんの授業も思い出に残っている。斎藤さんは東京教育大を卒業して間もなくの頃で、若い先生に出会えたこと、当時授業の出席調べをまだやっていなかった時率先して出席を取ったこと、体育館で今で言う体力測定のはしりをやらされたことなどが忘れられない。

顧問 多田 滋先生 (25年入学) は、平成19年6月10日ご逝去されました。心から哀悼の意を表します。

仙台支部役員名簿

(平成17.7.2~平成19.11.30)

顧問	藤井 黎	26佐々木一洋
"	28永野 昌一	31雪江 美久
支部長	37関口 隆	
副支部長	36阿部 琢也	36岡崎 忠
"	39軍司 啓	
参与	24岩淵昌次郎	24富塚 英雄
"	24志村 元一	29石森 幸子
"	31柘澤 怜	32佐々木亀三男
"	33佐藤 健仁	
理事	24川井 善夫	24丸谷慶二郎
"	25高橋 公正	25菊池 康雄
"	25静田 一	
"	26池田 和夫	26三橋 亮一
"	27佐藤 陽二	27青木 敏浩
"	28小關 幸生	28古澤 良一
"	29青木 寛敏	29星 博
"	30小野 正義	30小畑 博之
"	31楨 要照	31今野 健
"	31菅原 教雄	
"	32久保田 明	32砂金 信男
"	33小高 幸子	33金岡 昭房
"	34伊藤 静男	34河野 好郎
"	35泉 豊	35岡本 幸子
"	36正木 競	
"	37菊田 泰丸	37小倉 英樹
"	38熊谷 洋	38櫻井 正幸
"	39渡邊 宣隆	39菊地 光輝
"	41安住 裕	48桜田 博
"	50別府 成裕	51日下 毅
"	52吉川 邦彦	54南城 一之
"	57川上 芳夫	H4吉植 庄栄
監事	25佐藤 寿郎	48宮腰 英一
大学関係理事	玩渡部 信一	52熊井 正之
理事事務局	35伊藤 昭	37関口 隆
会計	35阿部 孝子	
"	37佐藤 勝美	37佐藤 勝子

事務局だより

下記のように委員会を構成し、それぞれ活動を展開しております。

会則検討委員会

委員長 31柘澤 怜 副委員長 31今野 健
委員 25静田 一 28古澤 良一
34伊藤 静男 37菊田 泰丸

名簿作成委員会

委員長 33金岡 昭房 副委員長 35泉 豊
委員 25高橋 公正 29青木 寛敏
31菅原 教雄 38熊谷 洋

会報発行委員会

委員長 27青木 敏浩 副委員長 32久保田 明
委員 25菊池 康雄 26池田 和夫
32佐々木亀三男 34河野 好郎

会計委員会

委員長 29石森 幸子 副委員長 39朴沢 徳昭
委員 35斎藤 良子 37佐藤 勝子

東北大学100周年記念式典は8月27日(月)仙台国際センターにおいて盛会のうちに終了いたしました。実行委員の皆様へ感謝申し上げます。

東北大学創立百周年記念事業推進実行委員会(仙台支部関係)

実行副委員長 37関口 隆

常任実行委員 25多田 滋

推進実行委員オピニオンリーダー

25多田 滋 25高橋 公正

27青木 敏浩 28永野 昌一

28小關 幸生 31柘澤 怜

推進実行委員 28木村 力雄 30小金澤紀光

33佐藤 健仁 36正木 競

39松田 尚嗣 39大浪 榮一

○会報11号をお届けいたします。ご多用の中、ご執筆いただきました皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

事務局(連絡先)

〒982-0816 仙台市太白区山田本町20-10

伊藤 昭 TEL 244-1830

〒982-0807 仙台市太白区八木山南3-14-13

関口 隆 TEL 244-2091